

第6回 函館市医療・介護連携多職種研修会（案）

日 時：令和3年10月16日（土） 14：00～17：00

開催方法：ウェブ開催（Microsoft Teams）

＊聴講参加はなし

対 象 者：医療・介護関係者

参加人数：定員 200 名程（MAX250 名可能）

《参集方法》

- ① ② ③：例年通りの方法で、案内を送付する
 - ④ ⑤：聴講参加はなしとするので、今回は案内をしない
- ＊申込人数に達した場合は、×切日を早める事を案内文に記載

- ① 協議会参加団体（医師会、看護協会、在研、函医連、MSW協会、居宅連協、包括連協、訪リハ連協、訪看連協、老施協）
→各団体を通さずに、センターから各医療機関・介護保険事業所等の多職種に向けて案内文を配布し、所属する機関等から参加申し込みをする。
- ② 協議会参加団体（歯科医師会・薬剤師会・柔整・函鍼連）
→各団体を通して、会員に向けて案内配布する。
- ③ その他（老健協、GH協会、ヘルパー連協、デイ連協、栄養士会、歯科衛生士会、介護福祉士会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、社会福祉士会、精神保健福祉士協会、有サねっと）
→所属する各医療機関・介護保険事業所等に配布している案内文から参加申し込みが可能である旨を各団体長から会員へ周知していただく。
- ④ 教育機関
→聴講参加なしとするので、今回は案内しない
- ⑤ 行政
→聴講参加なしとするので、今回は案内しない

参加費：無料

テーマ：在宅・施設・病院それぞれの多職種によるACPの在り方

目 的：ACP 実践に向けて、多職種の相互理解と ACP の理解を深める

- 目 標：
- ・在宅・施設・病院での事例を通して、利用者（患者）の思いや ACP の必要性を知る事ができる
 - ・研修にて、自職種を振り返り多職種と情報共有する事ができる
 - ・利用者（患者）の意思決定を支援するチームの一員として、明日からの働きを具体化できる

構 成：シンポジウム、グループワーク、発表（意見交換）

○シンポジウム

(座長)

医療法人道南勤労者医療協会函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也先生

(シンポジスト)

訪問看護ステーションフレンズ 所長 保坂 明美様 (20分)

特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家

生活相談員・介護支援専門員 南部 雄一様 (20分)

市立函館病院 緩和ケア科科長 山崎 裕 様 (20分)

*最後に、座長より話をして頂く (10分)

○グループワーク

(50分間)

(Microsoft Teams) 手動作業でグループ分け 5~6人: 40グループ

ファシリテーター(多職種メンバー)は、グループ内をまとめる

その他のグループには、司会を1人選定、依頼する

(まとめまではせず、GW 進行をしてもらう)

内容(案): 1事例を通して、自分だったら何ができたかを考える

○意見交換会

(25分間)

座長からの促しで他者からの挙手がない場合、座長よりファシリテーターに発表してもらう

(総評)

(15分間)

・各シンポジストと座長から総評いただく

※意見交換会と総評の時間配分は座長にお任せする

○役割分担

開会挨拶 本間会長

閉会挨拶 恩村副会長

司会 水越副部会長

補佐 寺田部会長

・ファシリテーター(多職種メンバー)

・ウェブ担当(事務局:センター)

○研修会中止時

ウェブ開催にむけた感染対策基準新型コロナウイルス感染症にかかる研修会中止の判断基準(資料7)に沿って、開催・中止の判断を行う

中止と決定した場合: 講演内容シンポジウムの動画撮影・公開とする。